

八間堀川への流入水路に着目したタイムライン検討会  
(第2回コアメンバー会議)

【日時】

平成29年12月28日(木) 10時10分から11時50分

【場所】

常総市役所 1階市民ホール

【参加者】

筑波大学：白川直樹准教授

常総市：染谷室長(市長公室)

：横島課長、小林課長補佐(防災危機管理課)

：小室部長(経済環境部)

：猪瀬課長、沼尻課長補佐、長瀬課長補佐(農政課)

：木村部長(都市建設部)

：戸塚課長、生井課長補佐(道路維持課)

：石塚課長、佐内課長補佐(道路建設課)

下館河川事務所：里村事務所長、石田副所長、星尾調査課長、金森管理課長、成田専門官、  
浅野鎌庭出張所長、高野水海道出張所長

茨城県：栗林技佐(茨城県河川課)

：丹次長兼道路河川整備課長、青川係長(常総工事事務所)

建設技術研究所：森田氏、古賀氏

【資料】

議事次第、参加メンバー(予定)、資料1(第1回会議 議事要旨)、資料2-1(流域特性)、  
資料2-2(河道特性)

## ■ 議事内容

### 〈八間堀川周辺の水災害リスクと冠水メカニズム〉

- 新八間堀川周辺は標高的に流域の水が集まる地域である。河川と周辺の地盤高を比較すると、洪水時の川の水位より相対的に低い。
- 新八間堀川の水位が点線（堤内地盤高）を越えると、実線（堤防高）の間で新八間堀川からの逆流や流入水路の排水不良が発生する。
- 排水機場はある程度の水量が無いと稼働出来ないので、間欠運転となる場合がある。この場合、最大排水量で稼働できないことや自然に新八間川から鬼怒川へ排水するより効率が悪い場合もある。
- 台風 21 号時は雨が朝には止んだが、水位が高くなるのは夕方から夜にかけてであった。流域の大きな川と小さな川では、水位のピークに時間差があり、八間堀川は鬼怒川の水位変化を踏まえた防災行動をとる必要がある。

### 〈関係機関の防災行動を整理したタイムライン〉

- 新八間堀川の水位上昇に伴って、どの樋門をどの順番でどのようなタイミングで開閉していくかという行動計画が重要となる。
- 常総市は 4 班で 7 施設を操作するが、班ごとにどう行動するかを整理できれば、“八間堀川への流入水路に着目したタイムライン” のイメージとなるのではないかと。

### 〈情報の共有と発信〉

- 管理主体が不明な施設が明らかになるなど、現状の課題が整理できた。それぞれの機関の防災行動とともに住民も含めた情報の共有、発信が重要である。

### 〈今後の進め方〉

- 予測できないことも起きるので、余裕があるタイムラインにしておいた方が良い。
- 市の HP にこれまでの会議資料を公表するとともに、地域の方々へ検討状況を報告する。

以上